

科目の内容（シラバス）

②授業科目名	③必修／選択の別	④単位数	⑤含む必須の教育内容番号	⑥担当教員名	⑦実施形態
共生認知心理論	必修	2	16・17・19	向居 暁	対面
⑧授業のテーマ及び到達目標	<p>認知心理学は心理学分野において主要なものの一つであり、その考え方は、教育活動、人間の発達、社会行動など、他の心理学分野においても有用である。本科目では、様々な認知心理学的研究からの知見が、現代社会における多文化共生や教育活動をはじめとした、日常生活においてどのような意義をもつのか考える態度を形成し、人間の認知や学習に関する基本的な行動を理解することを目標とする。この授業は、地域文化コースの専門教育科目「多文化共生コアユニット1」に位置づけられる。</p> <p>学修目標は以下のとおりである。</p> <p>①【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知心理学の基本的な概念や理論を理解し、それらを用いて人間の認知や学習に関する現象を説明できる。 ・ 認知心理学的研究の方法を把握し、それらを用いて自分の興味のあるテーマに関する実験や調査を企画・実施・分析できる。 ・ 認知心理学的知見が現代社会における多文化共生や教育活動などの日常生活にどのように応用できるかを考察し、具体的な提案や改善策を示せる。 <p>②【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知心理学的研究から得られたデータや結果を論理的に解釈し、それらに基づいて自分の意見や主張を構築できる。 ・ 認知心理学的研究の問題点や限界を批判的に分析し、それらに対する改善策や新たな研究課題を提案できる。 ・ 認知心理学的研究の内容や成果を、専門的な用語や表現を適切に使って、明瞭かつ分かりやすく口頭や文書で伝えられる。 <p>③【主体性・共同性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知心理学的研究知見と自分自身の特性に基づいて、自分の学習目標や計画を自己設定し、それに沿って自律的に学習活動を進められる。 ・ 認知心理学の理論や知見を現実の社会的課題に結びつけ、協働的なアプローチで問題解決に取り組み、社会に対して積極的な影響をもたらす主体性を発展させる。 ・ 多様な認知行動特性が存在することを踏まえ、他者の認知や学習に関する多様性や価値を尊重できる。 				
⑨授業の概要	<p>日常生活における具体的な経験を取り上げ、人間の認知的な精神機能がそれらにおいてどのように関与しているかを明らかにする。また、それらをもとにして、人間の認知的な精神機能の特質について心理学的観点から考察し、人間の心理・行動を認知心理学的に理解するために必要な基礎を培う。認知心理学分野のテーマから、特に、実験室研究で明らかにされてきた記憶や忘却の仕組み、また、日常認知研究として扱われる、顔や名前の記憶、自伝的記憶、目撃者証言、アクションスリップ、メタ認知、アフォーダンス、素朴理論に関わる認知心理学的知見について、実験や事例などを交えながら概説する。そして、このような知見が、人間の日常行動の理解にどのように役立つのかをともに探る。</p>				
⑩授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回を含む必須の教育内容番号
1	授業ガイダンスー認知心理学の基本構図ー				
2	記憶(1)ー短期記憶と長期記憶ー				16
3	記憶(2)ーワーキングメモリー				16
4	記憶(3)ー記憶方略ー				16・17
5	情報の検索と忘却(1)ー忘却の理論ー				16
6	情報の検索と忘却(2)ー再生と再認、顕在記憶と潜在記憶ー				16
7	日常世界と認知心理学(1)ー顔と名前の認知ー				
8	日常世界と認知心理学(2)ー自伝的記憶と幼児期健忘ー				
9	日常世界と認知心理学(3)ー目撃者証言ー				
10	日常世界と認知心理学(4)ー環境の認知とアフォーダンスー				
11	認知の制御過程(1)ーヒューマンエラーとアクション・スリッパー				19
12	認知の制御過程(2)ーメタ認知ー				17
13	イメージと空間の情報処理ー空間の認知と認知地図ー				
14	認知心理学の教育場面への応用				16・17
15	まとめー私たちの生活と認知心理学ー				
16	定期試験				

⑪使用テキスト	森敏昭・井上毅・松井孝雄（1995）「グラフィック認知心理学」（サイエンス社）
⑫参考書・参考資料等	<p>主な参考文献は以下の通りである。</p> <p>日本認知心理学会（2013）「認知心理学ハンドブック」（有斐閣）</p> <p>仲真紀子（2010）「認知心理学」（ミネルヴァ書房）</p> <p>井上毅・佐藤浩一（2002）「日常認知の心理学」（北大路書房）</p> <p>日本認知心理学会 監修「現代の認知心理学（全7巻）」（北大路書房）</p> <p>子安増生・楠見孝・齊藤智・野村理朗（2016）「教育認知心理学の展望」（ナカニシヤ出版）</p> <p>また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。</p>
⑬同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)	
⑭学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)	
⑮学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)	<p>上述した①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・共同性について、期末試験（50％）、授業課題（事前課題、まとめの課題、事後課題）（20％）、レポート課題（30％）の割合で総合的に評価する。試験は指定された教室（試験室）内で、80分間（論述式）、座席指定、学生証呈示で実施する。期末試験の際、「公式Cheat Sheet」のみ持ち込み可（評価の対象として答案と共に回収する）。その他の教科書・ノート・資料等の持ち込みは不可。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。授業課題やレポート課題は、Teamsの「課題」で提出すること。その他詳細については、第1回の授業において説明する。</p>